

メニ却テ家人ヲ損フ事出來ル物也、是主タル者ノ心得ベキ事也、珍器奇物ハ有テモ無テモ事欠ズ、家人ハ吾四肢也、一日モ無クテハ成ラヌ者也、天下國家ヲ治ルモ家人有ル故也ト語ラレシト、其近習ノ士話サレシト也、

〔武野燭談五〕一家光公三代將軍の稱號を給はらせ給ひ、何れもいづき奉る内にも、猶も天下の心を引みん爲に、大相國○秀忠川他界ましくける段、暫隠さるべきや否やと有しに酒井讚岐守忠勝が申けるに任されて、其夜を過さず、大小名觸渡され○略中不殘登城揃ひしかば、家光公被聞召、被仰出けるは、大相國薨去ましくたり、家光此時將軍職を給はりたりといへ共、天下の兵權を、望んは望まるべし、渡し可被遣也、但弓矢之法義に任せてこそ、引渡すべけれと存の外成上意に、諸將御請遲滯玄てけるに、松平陸奥守政宗進出て、御當家御恩を以、皆々心安罷在所、此節を以て、若所存を含輩も、候はゞ外迄もなし、政宗に可被仰付、ふみ潰申さんと、憚所もなく申さる、にぞ、各一同に御受申、退出有ける、

〔窓の須佐美一〕大炊頭利勝朝臣大老職なりし時、殿中より退出せられしが、時過て思ひ出らるゝ事ありしかば、明日までは事延引申なり、いざ立歸り、相議せんとて、老臣達うちつれたちて立歸り、常の所に歸り入んとせられしに、常につかはる、坊主共、退出せられし跡にて、うちくつろぎ、煙草を呑で居れるが、俄に歸られしかば、驚て煙を拂ふ事わすれ、平伏し居れり、たてまはしたる坐、七八人がすひし煙草の煙みちたれば、くらきほど也けり、朝臣入らんとして立歸り、面々が退し跡を拂とて、ほこりだちて、むせかへるばかりなり、いそぎ掃へとて、二の間ばかりこなたへ退、烟きえて後入られにけり、

〔松平信綱公言行錄〕一右の節○江戸火災出御家光川之時、上意には、富士見御藏に入置たる見物の御道具共、日本の寶也、焼失なき様に、取出されよと、信綱公へ仰付られ、御藏より取出し、西丸へ運ぶ